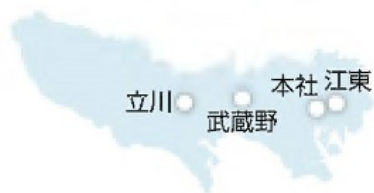


武蔵野



武蔵野支局 〒180-0006
 武蔵野市中町1の13の1 3F
 電話 0422(51)3131
 FAX 0422(51)3133
 musasino@yomiuri.com
 都内版編集室
 電話03(3217)1465・1466
 江東支局 電話03(3631)6116
 立川支局 電話042(523)4477
 ホームページ
www.yomiuri.co.jp/local/

購読は
0120-4343-81

【広告】読売Palette
 03(6272)9027
 【折込チラシ】 0120-03-4343
 【読売旅行】 03(5550)0666

10月19日(水曜日)
 旧 9月24日<友引>

■ あすの暦

通日	292		—
月齢	23.2		満潮
(正午)			14.31
日出	5.50	干潮	6.02
日入	17.01		20.44
月出	—		(小潮)
月入	14.01		

—東京標準—

アトムに「独歩の世界」

文人の
 武蔵野

手塚治虫(1928〜89年)の長期連載漫画「鉄腕アトム」には、「赤い猫の巻」という初期の名作があります。1953年の5月から11月にかけて、月刊誌「少年」(光文社)に7回にわたって掲載された連載です。

連載当時の「赤い猫の巻」では、ヒゲオヤジと呼ばれる小学校の先生が、「摩天楼のたちならぶ大東京」を背景に歩きながら、国木田独歩「武

手塚治虫 ①



手塚治虫氏

蔵野」の一節を紹介する場面から始まります。

「武蔵野を歩く人は 道を選らんではいけない」「ただその道をあてもなく歩くことでまんぞくできる」「その道はきみをみょうな所へみちびく…」「もし人に道をたずねたら…」「その人は大声でお話してくれるだろう おこっ

てはならない」「頭の上で小鳥がなっていたらきみは幸福である」

ヒゲオヤジ先生は、小学生にもわかる平易な言葉で独歩の「武蔵野」の世界を語りまします。ヒゲオヤジ先生が高層ビル街を歩きながら想いを馳せる武蔵野は、「山の手の方」にわずかに残る雑木林のある場所だとされています。

冒頭の商品紹介を導入として、「赤い猫の巻」では、「武蔵野」を東京から守るために生命をかけて闘う動物学者の物語が展開されます。ラストでは、独歩の「武蔵野」の表紙のカットで幕を閉じていますので、手塚の「赤い猫の巻」は、独歩の「武蔵野」へのオマージュだとわかります。

手塚治虫は、19世紀に書かれた「武蔵野」の世界を通し

てロボットが活躍する21世紀の未来の東京を見つめる作品を描いたのでした。

(武蔵野大教授、むさし野文学館館長・土屋忍)

おすすめの1冊

「鉄腕アトム<オリジナル版>01」

文学作品と同様に、漫画にも初出があり、異稿があります。雑誌連載当時、手塚治虫はまだ医学生でした。1960年代にはテレビアニメ化されて広く世に知られ、手塚の手を離れていく「鉄腕アトム」ですが、このオリジナル版全集では、50年代に苦悩しながら筆を進めた手塚の「鉄腕アトム」(52年「アトム大使」から改題)の魅力を味わえます。



(手塚治虫、復刊ドットコム)